

履歴書等の作成要領（保健学系・看護学専攻）

①「履歴書」について

- a 「年齢」は、応募時の満年齢を記入してください。
- b 「学歴」には、義務教育修了後から最終学歴までのすべての学歴について記入してください（高等学校卒業程度認定試験合格なども含む）。
- c 博士課程を出て未だ博士号を取得していない者の学歴は、「博士課程単位取得満期退学」と記入してください。
- d 大学の別科、専攻科については「学歴」欄に、研究生、聴講生等は「職歴」欄に記入してください。
- e 学位、称号の他、医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、教員等の資格についても「学歴」欄に記入してください。この場合、登録番号も付記してください。
- f 外国における資格については正確に記入するとともに、その資格の内容についても併記してください。
- g 外国留学については、学生としての留学の場合は「学歴」欄に、研究者としての留学の場合は「職歴」欄に記入してください。
- h 「職歴」は、職歴のすべてについて記入し、職名、地位等についても明記してください。

なお、当該教員が過去に大学設置・学校法人審議会（旧大学設置審議会を含む。）で受けた判定がある場合は、同欄に当該教員組織審査に係る大学名、審査の年月、専任・兼任・兼任、職名及び担当授業科目名（大学院にあつては判定結果（◎・合・可を含む。）を記入してください。ただし、学内審査は対象になりません。
- i 「職歴」は、各職歴について、在職期間が明確になるように記入してください。なお、現職については必ず「現職に至る」と明記してください。
- j 自営業、主婦、無職等についても省略せず「職歴」欄に記入してください。「職務の状況」欄についても同様です。
- k 担当科目に直接関係のある職歴については、できるだけ具体的に記入してください。（例：看護学科の教員で看護師経験のある者の当該看護師時の勤務病棟等）
- l 「学会及び社会における活動等」は本人の専攻、研究分野等に関連した事項について記入してください。なお、所属学会名は正確に記載してください。
- m 「職務の状況」は、記入日現在における職務の状況について記入してください。なお、教員以外の者の場合の「職務の状況」の欄については、「勤務先」、「職名」の欄のみを記入するとともに、現在の職務内容を、「備考」の欄に簡潔に記入してください。
- n 「職務の状況」欄の「毎週担当授業時間数」は、当該科目が前期のみ又は後期のみの開講の場合は前期又は後期の時間数を、集中講義の場合は総時間数を記入し、「備考」

欄にその旨を記入してください。

- o 外国人の場合は、母国語で記入して差し支えありませんが、その場合は訳文を添付してください。

②「教育研究業績書」について

- a 「事項」の欄については、担当授業科目に関連する教育上の能力に関する事項及び職務上の実績に関する事項を年月日順（過去→現在）に簡潔に記入してください。

(項目例)

[教育上の能力に関する事項]

1 教育方法の実践例

- ・ 優れた教育方法の実践例、マルチメディア機器を活用した授業方法、学生の授業外における学習促進のための取り組み、講義内容の web 上での公開 等

2 作成した教科書、教材

- ・ 作成した教科書、教材、講義で教科書として使用している著書、教材等の概要（後の「著書、学術論文」との重複も可。その場合、「(再掲)」と表示）

3 当該教員の教育上の能力に関する大学等の評価

- ・ 各大学での自己点検・評価の一環として、教育面で高い評価を受けた事実（その事由と評価内容）
- ・ 採用決定の際等における教育上の能力に関する評価
- ・ 学生による授業評価、教員同士の相互評価等をまとめたもの
- ・ 学外の評価機関等が行った評価
- ・ 上記以外で、学長、学部長、学内諸機関等が行った評価（客観性を持ったものについて記載）等

4 実務家教員についての特記事項

- ・ 大学から受け入れた実習生に対する指導歴（臨地実習、企業実習等）
- ・ 企業内教育、大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義等の概要
- ・ その他、所属機関や関係機関等において行った講義、講習、職員・関係者等に対する指導、海外等における留学、調査研究経験等を広く記載してください。

5 その他

- ・ 大学教育改善に関する団体等での活動の概要
- ・ 教育実績に対する受賞歴
- ・ 国家試験問題作成 等

※上記にとらわれず、積極的に記載してください。

[職務上の実績に関する事項]

1 資格、免許

資格について、担当する教育の内容に関するものなど、特に審査に関連すると思われるものについて記載してください。

2 特許等

本人の担当する教育内容等に関連した事項について記載してください。

3 実務家教員についての特記事項

実務経験の記載方法については、「職歴」欄に記載した事項を中心に、担当する授業科目に対応した下記の事項等を参考に記載してください。

① 従事した期間

② 職務の内容（どのような職務について、どのような役割を果たしたか）

③ 成果、結果

○ 官公庁等の研究者の場合

- ・ 大学との共同研究による研究実績がある場合、その概要、成果、当該研究者の役割

○ 医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、等医療技術者の場合

- ・ 症例研究会での発表等の活動

○ 福祉その他社会的活動の関係者の場合

- ・ 参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位

○ その他全般を通じて

4 研究費獲得状況

文部科学省科学研究費、厚生労働省科学研究費、その他に分け、「教育研究業績書」に記載した例に準じて記載してください。

5 その他

○ 職能団体等の第三者から、実務家としての卓越性に関して評価・推薦等がある場合

- ・ 職能団体等の名称、代表者、目的、業務
- ・ 評価・推薦の内容

○ 論文の引用実績 等々

○ 1 から 3 に該当するもの以外の事項について幅広く記載してください。

③ 「業績目録」について

a 「著書、学術論文等の名称」の欄については、著書、学術論文及びその他の順に適切に区分し、年月日順（過去→現在）に記入し、区分ごとに番号を付してください。

特に、複数レフェリーのある論文はその旨明記してください。

b 「概要」の欄には、著書、学術論文等の概要及び頁数について、各著書、学術論文等

ごとに明確かつ簡潔（200字程度）に記入してください。

- c 共著の場合は、本人の担当部分（概要及び掲載頁（pp.〇〇～〇〇）を示してください。）を明記し、本人の氏名を含め著作者全員の氏名を当該著書、学術論文等に記載された順（例：編者△△△△、分担執筆〇〇〇〇、□□□□、××××）に記入してください。なお、本人の担当部分を抽出するのが困難な場合は、その理由を明記してください（例：共同研究につき本人担当部分抽出不可能）。本人の氏名に下線を付し、責任執筆者である場合は*を氏名に付してください。また、著者が多数にわたる場合は、編者・編著者もしくは主な著者を数名記入し、以下を「他」、「**et al**」として、省略しても構いません。著者を省略する場合は全著者数と応募者名の掲載順を（何人中何番目）と記載して下さい。
- d 一冊の本を数人で執筆した場合、当該部分は単著であっても共著と整理してください。
- e 学位論文については、その旨明確になるように記入してください。
- f 発表学会誌等は、その名称の他、巻・号等まで明記してください。
- g 著書、学術論文等で発行又は学会誌等での発表予定のものについては、出版社や学会からのその旨の証明書を添付してください。なお、書類提出時以降に投稿予定のものは含めないでください。
- h 総説及び学術論文については、JCR（Journal Citation Reports TM）による2017年度版のImpact Factorが示されているものがある場合は、その数値を「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」欄に記載してください。
- i 「学会発表等」については、会議録に単著あるいは筆頭共著で掲載されたもので、主要なもののみ発表演題等の名称、単著、共著の別(会議録)、発表年月、学会大会等名（招請講演、特別講演、シンポジウム、一般演題の区分）（開催場所）、概要について記載してください。